

## 海外大学に進学したい！

### ～ 利用可能な奨学金について ～

#### ○ 独立行政法人日本学生支援機構（略称 JASSO）の奨学金

留学の経済的負担を軽減する奨学金には、返済が必要な「貸与型」と、返済不要な「給付型」があります。代表的なものに、独立行政法人日本学生支援機構（略称 JASSO）が募集する奨学金制度があり、学位取得を目的として海外大学へ進学・留学する学生向けに、「貸与型」及び「給付型」の制度を設けています。利用可能な奨学金制度を探している人は、まず JASSO のウェブサイトで、応募条件等を確認するところから始めましょう。

※ 日本学生支援機構が募集する海外留学奨学金

[https://www.jasso.go.jp/ryugaku/scholarship\\_a/index.html](https://www.jasso.go.jp/ryugaku/scholarship_a/index.html)

#### ○ 留学先大学の奨学金

家計状況により授業料が支払えない学生を対象とした、Need Based Scholarship と呼ばれる奨学金は、原則として留学生は対象外となっています。留学生は、出願の時点で、少なくとも初年度の費用が十分に用意できていることを、銀行預金残高などで証明することを求められます。

一方で、留学生にもチャンスがあるのが、Merit Based Scholarship と呼ばれる、学業成績等が優秀な学生や、スポーツや芸術等で高い評価を得ている学生を対象とした奨学金です。入学後 1 年目の評価に応じ 2 年目の授業料から適用されることは少なくありませんが、出願の時点で基準を満たせば、留学生でも、1 年目から一定額の授業料減額・免除等のオファーを受ける場合もあります。

#### ○ 海外留学を支援する日本の企業や団体の奨学金

昨今では、グローバル人材の育成を目的に、海外留学を支援する日本の企業や団体も増えてきました。これらの多くは、高校の成績証明書や TOEFL、IELTS などの語学力証明、そしてエッセイや面接を通して奨学生を決定します。留学する大学が決められている場合もありますので、応募条件や締切日等について、早い段階からチェックして準備していきましょう。

○ 押さえておきたい奨学金プログラム

・ JASSO 海外留学支援制度（学部学位取得型）

[https://www.jasso.go.jp/ryugaku/scholarship\\_a/gakubu/index.html](https://www.jasso.go.jp/ryugaku/scholarship_a/gakubu/index.html)

毎年9月頃に募集要項が公開され、翌月の10月中旬に応募が締め切られる。2022年度の募集は2022年4月～2023年3月までの間に留学を開始する人が対象で、人数は未定（2021年度45名）。留学する国や大学の制限はないが、アメリカのコミュニティカレッジなど2年制大学については、現在までの募集要項では対象外。

・ 柳井正財団海外奨学金

<https://www.yanaitadashi-foundation.or.jp/>

2017年に第一期奨学生募集が始まり、アメリカとイギリスのトップレベルの大学に学部留学する学生を毎年20名程支援している奨学金プログラム。2022年度募集は米国の概ねトップ50に入る48大学、および同等レベルの英国の8大学への留学が対象。公募制学校推薦海外大学奨学金（予約型）と公募制海外大学奨学金（合格型）があり、前者は2022年7月1日（金）から8月15日（月）まで応募を受け付け、書類審査や面接を経て、合否結果が9月30日までに通知される。

・ 笹川平和財団スカラシップ

<https://www.spf.org/scholarship/>

2022年度から開始された国際スカラシップ事業で、アメリカまたはイギリスの大学に学士号取得を目的に留学する人（財団の指定大学リストあり）を対象に募集。2023年度期留学生については最大50名程度の奨学金支給者を予定。

・ 経団連グローバル人材育成スカラシップ

<http://idc.disc.co.jp/keidanren/scholarship/>

将来グローバルなビジネス領域において活躍する意思を持った大学生に、1年間の海外留学を支援する。応募できるのは対象校となっている大学の学生に限定されるため、国内大学への進学を検討する段階で確認が必要。例年、7月頃に翌年度の募集要項が発表される。